

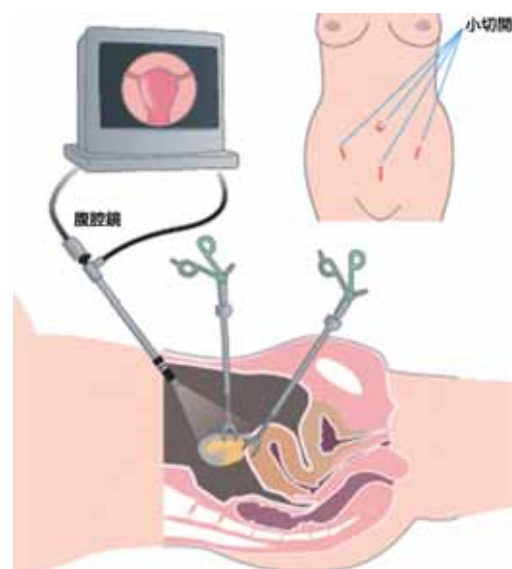
腹腔鏡下手術 について

当院の婦人科は、**子宮筋腫**や**卵巣のう腫**など良性（＝がんなどの悪性の病気が疑われない）疾患に対する**腹腔鏡手術**、さらに**子宮内膜症・子宮腺筋症**に対する**薬物治療および腹腔鏡手術**に特化した専門的治療を行っております。

ふくくうきょう 腹腔鏡手術とは？

おへそからカメラを入れて腹腔（＝お腹の中）を観察しながら行う手術です。お腹の奥深いところの細かな構造も非常に鮮明な映像で見ることができます。このよく見える拡大視野を活かして、従来のお腹を大きく切る開腹手術では難しかった細かい手術操作行うことが、当科では可能になっています。

一般的には、腹腔鏡手術のメリットはお腹のキズが小さいことと言われていますが、私達は、ただキズが小さいだけでなく、『**繊細で丁寧な手術**』『**体にやさしい手術**』を行うことを大切にしながら、心を入れて腹腔鏡手術を行っております。



子宮筋腫について

原因は不明で、約3割の女性の子宮に子宮筋腫があるといわれています。困る症状や問題がなければ必ずしも治療は必要ありません。当科で行う手術は以下の2種類です。

① 腹腔鏡下子宮筋腫核出術

子宮筋腫を子宮から取り除いて、子宮を温存する手術です。主に、妊娠予定のある方で、子宮筋腫のために月経の出血が多過ぎて貧血の原因である場合、妊娠の妨げになり得るあるいは妊娠中のトラブルになり得る場合が治療対象になります。この手術を行っても、子宮筋腫は再発する可能性が高いです。

② 腹腔鏡下子宮全摘術

子宮を摘出する手術です。再発の心配がありません。妊娠予定がなく、根本的な治療が望ましい方が対象になります。

※その他の治療法（開腹手術、子宮動脈塞栓術など）が望ましいと考えられる際は、当科より適切な医療機関へご紹介、あるいは再度紹介元の施設へ受診頂く場合があります。

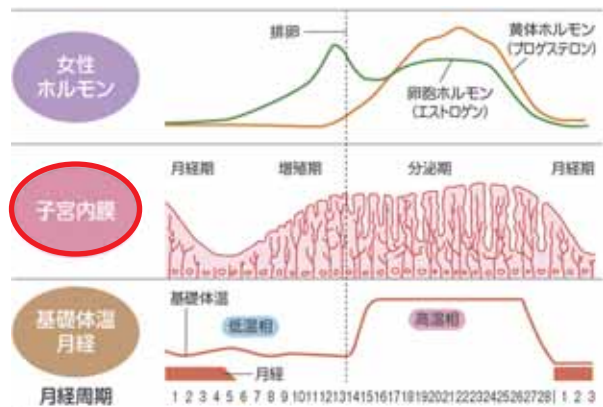
子宮内膜症とは？

本来は子宮の内腔にしか存在しない**子宮内膜**に似たような組織が、子宮の外など本来の場所以外で**月経周期にしたがって**増殖と出血を繰り返し、放置すると**卵巣から分泌される女性ホルモン**で進行しつづける病気です。

子宮内膜症のできる場所は？

1. **卵巣子宮内膜症性のう胞（＝卵巣チョコレート性のう胞）**
卵巣にチョコレート状の古い血液が貯留し腫れあがり周囲と癒着、ときに破裂を起こします。
2. **深部子宮内膜症**
本来は軟らかい子宮や腸などを包む腹膜が分厚く硬くなりひきつれている状態です。
3. **子宮腺筋症**
子宮の壁の中に子宮内膜細胞が散らばっている状態です。
4. **稀少部位子宮内膜症（直腸などの腸管、膀胱、尿管、ソケイ部、臍など）**
子宮・卵巣に隣接する他の臓器のほか、腹壁（お腹の壁）にもできることがあります。

子宮内膜症



子宮内膜症では、どんな症状が起こる？

子宮内膜症の存在する場所によって多彩な症状が起こりますが、主に3大症状として、**強い月経痛・慢性骨盤痛（排便痛・性交痛・排卵痛など）・不妊**が挙げられます。痛みの症状を長い間我慢している方の中には子宮内膜症が進行し重症化している人もいます。

治療のポイントは？

薬物療法（低用量ピルやジエノゲスト）で、子宮内膜症の細胞が増殖しないようにすることで、進行を抑制し、症状を軽くすることができます。ただし、現在のところ子宮内膜症に有効な治療薬は排卵を抑える作用のため、妊娠を希望する期間には使用できません。

子宮内膜症の手術には、微細な操作が可能な腹腔鏡手術が非常に適しています。手術には、**妊娠を目的とした機能温存手術**と、**根本的に問題を解決する根治手術**があり、目的によって手術を行うタイミングを慎重に選ぶ必要があります。

子宮内膜症治療のポイントは、**ライフステージに合わせて薬物療法と手術療法を戦略的に計画**することです。私たちは、患者様ひとりひとりの方のライフプラン・年齢・症状に合わせて、適切な診断をした上で正確な情報をご提供し、最善の治療法を選択できるような力を尽くします。